

林道事業再評価調書

事業名	林道開設事業（森林基幹道）	路線名	いわくらまみに幹 岩倉蟬谷線																	
事業主体	徳島県	関係市町村	那賀町(旧木沢村、旧木頭村)																	
事業概要	【目的】 本路線は、那賀町岩倉地区(旧木沢村)を起点とし、勘場山と平家平との稜線を通過し那賀町蟬谷地区(旧木頭村)を連絡する森林基幹道である。当区域の広大な森林資源の合理的な林業経営に資するための重要な基盤とし整備することにより、森林整備の促進による森林の持つ公益的機能の維持・増進と、中山間地域の雇用増進を図ることを目的とする。また、集落間を結ぶことで地域の生活基盤の改善はもとより、災害時の迂回路として利用する。																			
	【内容】 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">利用区域面積</td> <td style="width: 30%;">1,782ha</td> <td style="width: 40%;">[人工林面積:974ha (55%)]</td> </tr> <tr> <td>受益戸数(森林所有者数)</td> <td>125戸</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幅員</td> <td>3.5～4.0m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計画延長</td> <td>19,340m</td> <td>(うち平成25年度末の供用予定延長 15,510m)</td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>4,040,000千円</td> <td>(うち平成25年度末の実施予定事業費 3,241,342千円)</td> </tr> <tr> <td>事業予定期間</td> <td>昭和62年度～平成34年度</td> <td>(36年間)</td> </tr> </table>			利用区域面積	1,782ha	[人工林面積:974ha (55%)]	受益戸数(森林所有者数)	125戸		幅員	3.5～4.0m		計画延長	19,340m	(うち平成25年度末の供用予定延長 15,510m)	総事業費	4,040,000千円	(うち平成25年度末の実施予定事業費 3,241,342千円)	事業予定期間	昭和62年度～平成34年度
利用区域面積	1,782ha	[人工林面積:974ha (55%)]																		
受益戸数(森林所有者数)	125戸																			
幅員	3.5～4.0m																			
計画延長	19,340m	(うち平成25年度末の供用予定延長 15,510m)																		
総事業費	4,040,000千円	(うち平成25年度末の実施予定事業費 3,241,342千円)																		
事業予定期間	昭和62年度～平成34年度	(36年間)																		
評価項目	【事業の進捗状況】 工事は、起点側木沢工区と終点側木頭工区の両方から進めており、平成25年度末現在、木沢工区側6,200m、木頭工区側9,310mの開設・供用を予定しており、進捗率は80%と計画どおりに進んでいる。 <div style="text-align: right;">[進捗率:80.2%]</div>																			
	【関連事業の整備状況】 供用されている区間では作業道が整備され、林業飛躍プロジェクトでの間伐システムが盛んに行われている。また、沿線においては、緊急時のヘリポートが増設されており、平成16年度の集中豪雨による災害時には孤立する岩倉地区への物資等の輸送や、救急患者の搬送にも利用されている。 平成21年度から平成24年度までに延べ113haの森林整備を実施している。																			
	【社会経済情勢の変化】 ・円高の下での輸入木材製品の増加や経済情勢の悪化による木材需要量の低下など、林業を取り巻く環境は依然として厳しい。こうした情勢の下、山村地域の主要産業である林業の持続的かつ健全な発展が望まれ、また、異常気象による土砂災害の防止や二酸化炭素の固定など地球温暖化の抑制に役立つ森林の多面的機能の維持が求められている。 ・本県の森林資源は、この半世紀で、3倍に増加している。特に、スギの人工林は50年生以上が半数以上を占め、成熟期を迎えている。 ・こうした中、県は、平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目標にした「次世代林業プロジェクト」を推進しており、木材生産量の増加、林業従事者の増加など成果を上げている。 ・木材生産部門においては、従来の架線系木材搬出システムに比べ、2倍以上の生産性を有する「高密路網と高性能林業機械を組み合わせた新システム」の整備、普及を進めており、高密路網の中核となる林道の整備を急ぐ必要がある。 このような中、全国でも有数の林業地帯である当町内の林業は、建設業から林業へ参入するなど林業振興の向上が見られる。																			
	【計画上重要な部分の変更の必要性の有無】 無し																			
目	【事業効果の発現状況】 供用開始した区域を利用して、昭和62年度から平成24年度までに延べ1,187haの森林整備を実施している。また、今後においても、供用区間が増加するに伴い、さらに森林の整備、保全のための施策を図っている。 <div style="text-align: center;">[費用対効果] 1.11 (国の採択基準は1.0以上)</div>																			
	【受益者・関係機関の意向】 ・本路線は、旧木沢村と旧木頭村の境界周辺の人工林地帯を通過し連絡する計画で、路網が未整備であることから、間伐等の保育が遅れた森林が多く、森林所有者からの要望が強い。 ・旧木沢村と旧木頭村を最短距離で連絡し、道路網の幹線となるだけでなく緊急時における岩倉集落の迂回路となり、地域の交通ネットワーク上の役割も大きいと、関係町村、森林所有者等は早期完成を望んでいる。																			
【事業の実施方針】 継続して事業を実施する。																				